

# YSLAだより

平成26年6月10日号  
http://ysla.jp.net/

山口県学校図書館協議会発行 事務局：山口市立大海小学校 TEL 083-984-2253

新年度が始まって2ヶ月あまり、山口県学校図書館協議会(YSLA)では本日総会を迎え、平成26年度の各事業を本格的にスタートさせます。では、昨年度の各種コンクールや研究大会等について、今号で振り返ってみましょう。

## 平成25年度各種コンクール

### 《第59回山口県読書感想文コンクール 兼 全国コンクール》



《全国コンクール表彰式に列席した受賞者たち》

平成25年度の県内各校からの応募数は小学校44950点、中学校31562点、高校13153点。この中から最終審査会で選ばれた優秀作品(小9点、中3点、高3点)を「第59回青少年読書感想文全国コンクール」に応募しました。その結果、小学校低学年の部・課題読書の部で山岡千銀杏さん(山陽小野田市立赤崎小学校1年)がサントリー奨励賞、小学校中学年の部・課題読書の部で中島真也さん(美祢市立大田小学校4年)が全国学校図書館協議会長賞、中学校課題読書の部で五嶋大輔さんがサントリー奨励賞を受賞しました。

### お気に入りの一冊になりました 中島真也(美祢市立大田小学校4年)

——全国学校図書館協議会長賞受賞作品「小さな『こおり』の大きな力」  
(書名『こおり』前野紀一/文 斉藤俊行/絵 福音館書店)

ぼくは、絵を描くことが大好きです。特に身の回りの小さな花や虫、鳥などを観察して描くことには夢中になります。図鑑を見ながらふしぎを発見したときはうれしい気持ちになります。

『こおり』の本は、お父さんと行った町の図書館で見つけました。表紙のかき氷の絵がとてもすずしげできれいだったので、すぐに借りました。絵にひかれて読み始めたのですが、ページをめくるごとにお気に入りの一冊になってきました。

この本にはたくさんのおどろきと発見がありました。手のひらにのる小さな氷はとてもがんこな性質を持ち、それが地球全体をめぐってぼく達の生活を守ってくれている、ということが一番心に残りました。これからのぼくにできることは何かを考えるきっかけにもなりました。

受賞の知らせを聞いてとにかくびっくりしました。もっともっと生き物や科学の本に出会ってふしぎを発見していきたいです。



『こおり』の表紙

### 《第57回山口県読書感想画コンクール 兼 西日本読書感想画コンクール》

平成25年度の県内各校からの応募数は小学校54564点、中学校2179点、高校348点。この中から最終審査会で選ばれた優秀作品123点を「第57回西日本読書感想画コンクール」に応募しました。その結果、最優秀・文部科学大臣賞1点、優秀3点、優良5点、佳作24点が県内から選ばれました。

**最優秀** 富永さつき(周防大島町立大島中学校3年 「自然を壊すな」 書名『ぼくらの南の島戦争』)

**優秀** 柏木海輝(田布施町立田布施西小学校5年 「雪わらすの優しさ」 書名『水仙月の四日』)

足立遼汰(田布施町立田布施西小学校6年 「ミスター・コンダケの悲しみ～愛の書びたり虫～」 書名『雨ふる本屋の雨ふらし』)

杉山夕渚(周防大島町立大島中学校2年 「戦いの気持ち」 書名『アラルエン戦記① 弟子』)

### この本に出会ってほんとうに良かった

富永 さつき (周防大島町立大島中学校3年)

この度は山口県読書感想画コンクールの教育長賞や西日本読書感想画コンクールの最優秀賞をいただき、ありがとうございました。結果を聞いたときはとても驚き、最初は信じられませんでした。3年間一生懸命に取り組んできてほんとうに良かったと思いました。

『ぼくらの南の島戦争』という本は、学校の朝読書の時間に読んだ本です。中学生が自然を守る事の大切さを教えてくれる内容で、きれいな海や自然を壊さないでほしいと思いながら読んでいました。感想画の構成には時間がかかりましたが、全体が明るくきれいな感じになるように配色の計画を立て、最後まで楽しく描くことができました。特に、貝がらや海の感じを引き立てようと、わたしが育てたオクラを使ってのスタンプ押しが楽しくてついひまってしまいました。また、この本に出会って、自然を壊さないために自分に何ができるかを考えることができ、身の回りの生活を見直すことができました。この本に出会って、ほんとうに良かったです。



最優秀受賞作品「自然を壊すな」  
富永さつき(大島中学校3年)

### 《第56回山口県読書ノートコンクール》

平成25年度の応募と審査講評は次のとおりです。

**小学校の応募は自由図書部門138点、調べ読み部門43点。**低学年では「家族や教師とともに読書ノートを作っていく楽しさを感じられる作品が多くあった」。学年が上がるにつれ教師の適切な指導が必要であるとの指摘もありました。**中学校の応募は55点。**出品数は少ないが、年間146冊読んだものや幅広いジャンルを読み込んだものなど質の高い作品がありました。**高校では県審査への出品総数が135点(参加校21校)。**講評として、「先生と交流しながら力が付いていく様子を感じるノートがあり、やはり教師のコメントは大切だ」「本当に読書が好きなのだ」と伝わってくるノートがあり、楽しく審査できた等がありました。

### 平成25年度各コンクール山口県教育長賞受賞者

県読書感想文コンクール	小野優衣(防府市立松崎小学校1年) 吉村千咲(宇部市立川上小学校3年) 石原璃々花(柳井市立柳東小学校6年) 福岡萌希(周南市立岐陽中学校1年) 宮内愛理(山口県立萩高等学校2年)
県読書感想画コンクール	藤野誇太郎(下関市立神玉小学校4年) 富永さつき(周防大島町立大島中学校3年) 鞆岡琴美(山口県立岩国商業高等学校2年)
県読書ノートコンクール	横瀬史乃(周南市立久米小学校2年) 大田春菜(萩市立萩西中学校2年) 金村 葵(山口県立下関南高等学校2年)

### 第36回九州地区学校図書館研究大会(沖縄大会) 大会テーマ～学びを支え、未来を創る学校図書館～



《開会行事～会場は豊見城市立中央公民館》

平成25年8月1日(木)、2日(金)に沖縄県豊見城市で開かれた九州大会は、沖縄県SLA50周年の記念大会であり、前回の第29回大会が台風で中止になったこともあって、本大会によせる沖縄県関係者の熱い思いを感じる大会でした。参加者は九州各県から約500名。初日の「基調提案」では沖縄県の学校図書館の現状が示され、学校図書館に求められる研究課題を八つ提示して、2日目の各分科会につなげるという方針が説明されました。アトラクションは八重瀬町志多子ども会による伝統芸能「組踊・長者の大王」。郷土の伝統を堂々と披露する子どもたちの姿に感動しました。初日の午後は絵本作家のあきやまただし氏による記念講演。著書『へんしん』シリーズ等の作品のできるまでが語られ、「文字を音声化すると、



《KILLIN Elementary Schoolの図書館》

子どもたちは反応してくれる」と。ギター伴奏等での「絵本ライブ」が始まって会場は大いに盛り上がりました。

2日目の八つの分科会では校種別に研究発表や協議が行われました。アメリカンスクールは中学校と小学校を視察。図書館のディスプレイがカラフルで、その広さと天井の高さに圧倒されながら、図書館での授業が機能していると実感できました。

肌を刺すほどに強い日射しの沖縄らしい真夏を満喫し、たった1名の山口県参加者も歓待を受け、関係者に感謝です。

[報告はYSLA事務局長・井宮昇子(光高校教諭)]



《初日の夕食会「図書館を語る集い」》



## 平成25年度山口県司書教諭研修会 3か年のビジョンと実践、理解者との連携を

本研修会は、8月9日(金)山口市大海総合センターにて開催されました。今回は、山口県の学校図書館に携わる者にとって、今何をすべきなのか、自分たちが置かれているきびしい現状の中で何が出来るのかを考えるきっかけ作りになればと考え、(公社)全国学校図書館協議会の常務理事として活躍されている竹村和子先生を講師としてお招きしました。また、11月開催の中国地区学校図書館研究大会浜田大会で発表される先生方の実践事例発表も行いました。県内の司書教諭や図書支援員の方等102名もの参加があり、大変有意義な一日となりました。



### 講話「今、学校図書館に求められているもの～司書教諭の役割を中心に～」

公益社団法人全国学校図書館協議会常務理事 竹村和子先生

竹村先生は、これからの学校図書館はどうあるべきなのか、学校図書館の果たすべき本来の機能について、国の現状や抱えている問題点等も踏まえて、わかりやすくお話しくださいました。司書教諭としてまずやるべきことは自館の見直しだとおっしゃいます。そして、今何ができるのか、何から取りかかるのかを考え、3年計画のビジョンをもち、ひとつずつ実践していくように言われます。また、実践にあたっては、1人でするのではなく、校内や地域に理解者を増やし、連携していくことが大きな力となるとのこと。参加者は、先生からの励ましの言葉に、大変ではあるけれど、今できることから始めていこうという思いを新たにしました。

### 「子どもの学びを支える学校図書館の活用」 周南市立富田西小学校 信國智子先生

富田西小学校では、「学校図書館教育を基盤とし、基礎・基本を大切に、言語能力を高め、共に伸びようとする児童の育成を図る」ことを学校重点目標に掲げ、学校全体で学校図書館を活用した授業づくりに取り組んでいます。信國先生は、国語科や社会科での図書館を使った授業実践を中心に発表されました。司書教諭、図書主任、学校司書の三者が上手に連携することで充実した調べ学習ができるようになり、児童の学びに対する姿勢が変わってきたと言われます。その原動力として学校司書の存在が大きかったと感じました。学校図書館の機能を十分に活用し、大きな成果が得られた素晴らしい発表でした。



### 「学校図書館の活性化をめざして～学校図書館を支える人～」

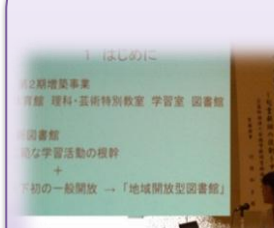
山陽小野田市立厚陽中学校 原田晴美先生

厚陽中学校は、平成24年に小中併設連携校として生まれ変わり、小中合同の学校図書館を有する新しいタイプの学校として注目されています。原田先生は、この新しい学校図書館を活性化するために実践されてきたことについて発表されました。「日本一の読書っ子」を目標に読書活動に力を入れてきたこと、五十嵐絹子先生からアドバイスを受け魅力的な図書館づくりを行ってきたこと、図書支援員の配置や地域ボランティアの協力、公共図書館との連携、そして小中合同という特色を生かした取り組み等、その内容はどれも興味深いものでした。小・中合わせて9年間の「学校図書館指導計画」の作成により、学習センターとしてもさらなる活性化が期待されます。



### 「地域開放型図書館への取り組み」 学校法人野田学園野田学園高等学校 吉村明子先生

野田学園高等学校は、2012年より山口県で初めて地域開放型図書館の運営を開始したことで注目を集めています。吉村先生は、地域開放型図書館の運営や図書委員の活動を通しての成果と課題を発表されました。最初は違和感があったが、今では地域の方の本を読む光景が当たり前になってきており、図書委員も文化祭等で地域とつながることに役立つ活動に取り組んでいると言われます。ただ、時間的にも蔵書数や種類においても制約があり、地域の要望に対応できない現状があるとのこと。防犯上の不安も今後の課題だそうです。しかし、地域とつながることで、学校に新たな意味づけと空間が生まれ、生徒はそこから何かを学んでいくことなのでしょう。今後の成果が大いに期待される発表でした。



[報告は YSLA 司書教諭部長・富重扶美子(玉祖小教諭)]

## 第28回中国地区学校図書館研究大会(浜田大会)

### 池上氏から託された「読書の楽しさを伝えよ」

平成25年11月7日(木)、8日(金)の両日、島根県浜田市で第28回中国大会が開かれました。そのテーマは「豊かな感性と確かな学力をめざして～学びをひろげる学校図書館～」。



《大会長のあいさつ～開会行事》

初日の開会行事後、「学び続ける力」と題して東京工業大学教授でジャーナリストの池上 彰氏による記念講演がありました。テレビのニュース解説等でおなじみの、時折ジョークを交えたスピード感ある話しぶりは、聴く者を惹きつけてあっという間の90分間でした。氏は、「相手に自分を理解してもらうには、相手に対する想像力、思いやりが必要だ。それは本を読むことで身につく」と。そして、これこそが読書の効用であり、大事なことだとおっしゃいます。また、さまざまな国を訪れた経験から、「本を読む人たちがどれだけいるかで、その国の発展段階が分かる」と。毎日新聞の調査から、小学生が以前に比べて非常に多く本を読むようになったと指摘され、「本を読む喜びを幼い頃に知ったら、それによって、ずっと本を読んでいける。小学校、あるいは中学校、高校で本を読む楽しさを知り、自ら学ぶことの楽しさを知れば、社会に出てからもずっと自分で本を読み続けることができる。ぜひ、皆さん方にはその基礎を築いてほしい」。氏は御自身の思いを私たちに託されました。



《出入口から見た浜田商業高校図書館》

2日めは校種別での公開授業と13の分科会が開かれました。分科会では山口県から周南市立富田西小学校の信國智子先生と河村京子先生(学校図書館司書)、山陽小野田市立厚陽中学校の原田晴美先生と森重登志江先生(図書支援員)、野田学園高等学校の吉村明子先生が発表されました。また、指導助言者として県教育庁高校教育課指導主事の内田正弘先生、宇部市立楠中学校長の村上明子先生が出席されました。

高校の分科会では「学校図書館を支える『ひと』の連携」に参加し、島根県と広島県の学校図書館についての情報を得ることができました。島根県

では平成23年度、分校・併設定時制を除く県立高校全35校に学校司書が配置され、初任の学校司書も増えたため、司書部会では学校司書同士の連携をはかり司書に必要なスキルも伸ばしていくようにしている、と。また、発表された高校では年間約160時間、図書館を活用した授業を計画し実施しているそうです。広島県の高校は司書教諭、図書教諭、学校司書、ボランティア等、さまざまな立場の人が図書館にかかわっているが、明確なスタンダードがない、と。そんな中、広島県立図書館の学校図書館支援事業が25年度から3年間実施されるそうです。公開授業校である島根県立浜田商業高校の図書館を訪問しましたが、図書館に入る前のスペースや図書館内のディスプレイがさまざまに工夫されていました。学校司書の役割の重要性を再認識する大会となりました。 [報告は YSLA 事務局長・井宮昇子(光高校教諭)]



《特設コーナー～浜田商業高校図書館》

### 編集後記

本紙記載の各種コンクール受賞者や各報告者の学年、所属等は、平成25年度のもので、御了承ください。

さて、YSLAにかかわり続けて10年、この2年間は事務局長を務めてまいりました。その任を終えようとしている今、一から教え導いてくださった YSLA 役員の皆様には感謝の思いでいっぱいです。ありがとうございました。(平成24、25年度 YSLA 事務局長)

### 平成26年度事業計画

- 6月10日(火) 山口県学校図書館協議会総会
- 6月13日(金) 全国学校図書館協議会総会
- 8月6日(水)～8日(金) 第39回全国学校図書館研究大会(山梨県甲府市)
- 10月下旬～ 第60回山口県読書感想文コンクール
- 11月上旬～ 第58回山口県読書感想画コンクール
- 11月20日(木) 第29回山口県学校図書館研究大会(光市) 山口県司書教諭研修会・高教研総会を兼ねる
- 1月下旬～ 第57回山口県読書ノートコンクール